

脈々 高蔵魂^{スピリッツ}

(創立者 市邨芳樹のことば)

「一意専心」

自立に欠かせない自尊心も、過度に働けば妨げとなる。人は、僅かな称賛にうぬぼれ、少しの非難にもめげる。

「あの人、あんな栄誉を受けて得意になってるようだ」「あんなことを言われて、彼もかなりこたえているらしい」と自分のことながら第三者のことの如く考え、それを口にも出してみよ。

この処方、靈驗あらたか。

我若し毀誉に遭遇せんか、之を自己の褒貶
と思はずして第三者のことの如く考えれば、
廉恥^{れんち}の妙則に準拠すべし。 (「藪椿」8-4)